

学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.195

(財)日本学校保健会

生涯を通じて、豊かな心をもち
たくましく生きる子どもの育成
—学校・家庭・地域の連携をとおして—

第43回全国学校保健研究大会の主題
(平成5年度 大分県)

年 頭 所 感



(財)日本学校保健会 会長 村瀬敏郎

新年を迎え、学校保健に関係する皆様のご尽力に感謝申し上げると共に、本年も倍旧のご支援をお願い致します。

21世紀にその到来が予測されている高齢社会に対して、少子社会なる新語が浮かび上がるほどわが国の人口構成の変化は大きな社会問題となっています。将来の生産人口の核となる児童生徒の健全な育成を目指す学校保健関係者の責務は、ますます大なるものがあるといえましょう。

日本学校保健会は、数年来メインテーマとして掲げてきた「こころとからだ」の健全な育成を、より充実した運動として実践し、その成果が明日の日本社会に貢献するよう、全力を傾ける責務があります。児童生徒との連帯を強化しつつ、より成熟した学校保健の果実が得られるよう、皆様の絶大なご協力を切望する次第です。

大分県における第43回全国学校保健研究大会において、その成果をお話し合いできることを期待して年頭のご挨拶と致します。



第42回全国学校保健研究大会開会式

目 次

- 新春座談会
登校拒否から
保健室登校まで…2～7
- 叙勲・表彰の
個人・学校・団体…3～9
- 全国大会の特別講演
ワイン文化を考える …10
- 北から南から …11
- よい歯の学校表彰 …11

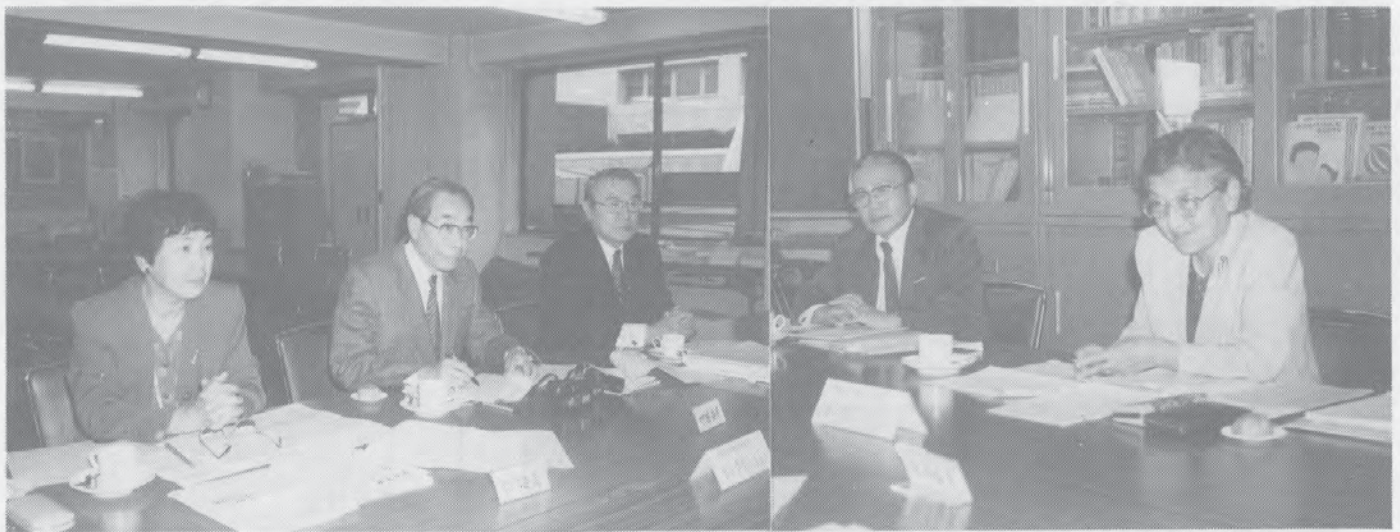
会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

《新春座談会》

☆登校拒否から 保健室登校まで☆

実態と対応を考える

出席者 東京女子医科大学名誉教授 草 川 三 治
聖路加看護大学教授 飯 田 澄美子
会報「学校保健」編集委員長 杉 浦 稔
〃 「学校保健」編集委員 福 原 保 子
司 会 〃 「学校保健」編集委員 竹 田 鎧



左から 福原、竹田、杉浦、草川、飯田 の各氏 (於 日本学校保健会会議室)

“マイナス行動”の周辺

司 会 登校拒否あるいは保健室登校といわれる状態、この現われ方は多彩でなかなか把握し難いように思われますが。

草 川 登校拒否が大きな問題になってきたのは、おおむね20年くらい前からかと思われていますが、それとは別に30~40年くらい前から起立性調節障害 (OD) があって、教育現場の悩みの種になっていまし

た。

起立性調節障害の主な症状は、朝起きられないということのほか、腹痛、頭痛などの身体症状を含みます。

登校拒否の場合も最初はやはり、朝起きられないことのほか、頭痛、腹痛などの身体症状を訴えます。このように類似点も多く、私にはこの二つのもの(起立性調節障害と登校拒否)は本来同じ範ちゅうに入

るものではないかと思われるのです。

さて登校拒否についてはいろいろの説があり、例えば背景として、母子家庭、家庭内のトラブル、兄弟姉妹間の問題など、また学校で先生に叱られたとか、さらに学級の友達関係がうまく行かなかった…等の原因があげられていますが、私はそういった背景は原因ではなく、せいぜい誘因にすぎないと思っています。すなわちその子の中に基本的に“うつ傾向”が潜在しており、そこに種々の誘因が加わって発現するのではないかと思うのです。

さらに重症ともなれば、自室に閉じこもったり、食事も拒否し、遂に自殺にまで行く例もあります。

登校拒否は一般に(ジャーナリズムの世界でも)心理的な問題として扱われており、文部省でもそのように考えているようですが、私の考え方としてはそれだけではなく、医学的な面(うつ傾向)もあると思っています。

飯田 私は昭和37年からおおむね30年、女子中学生、高校生(私立)を対象に“健康相談”(ヘルスカウンセリング)を続けてきており、今も1週日のうち、半日をそれに当てています。

長い経過の中で、時代の変化とともに、心の健康に問題をもつ生徒がふえてきました。そんなわけで今でも非常勤の形でこの仕事を続けておりますが、私自身にとってもたいへん勉強になると思っています。

福原 私、長く養護教諭をしていましたが、その時を通じての感触では、やはり家庭での状況にかな

小・中学生で全国に4万人くらいの登校拒否児があり、それに潜在性のタイプ(登校したくないが、辛うじて行っている)を加えると、子供達の約60%にもなるということでした。

家庭の状況として、どうも両親の“子供への愛”が、ストンと子供の胸の中に落ちていない、のではないか…。まあ日本人の表現下手とでも申しませうか。愛の存在感、すなわち、愛情の表現力に欠けているのではないかと思う部分がありました。これが登校拒否の原因のすべてではないかもしれませんが…。

杉浦 私も長年、学校医として、いわゆる学校ぎらいの子供達を何人か見ましたし、たしかにその中には医療を必要とする例もあったように思います。

ところが、その子供達が“時”を乗り越えて今、社会人として立派に生きているのを見ますと、何か子供達にとって“一時期そうなることもあり得る”ということを感じますね。

ですから子供達の周囲が、あまり騒ぎ過ぎるのもよくないのではないか…という感じもあります。最近相談をうけた例ですが、種々の訴えに対して大病院で精査をうけましたが異常なし…。その後、小児科の専門カウンセラーの指導をうけたところ、すっかり良くなったという子供もおりました。

現代はまず、価値感の変化があり、それをうけた両親の気持などは、あからさまに子供に影響するでしょうし、また家族全体の“日内リズムの乱れ”なども影響すると思われます。いうなれば『子は親の鏡』かもしれません…。

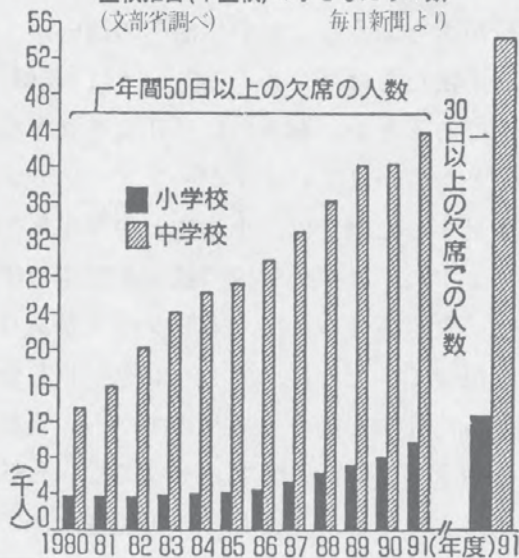
飯田 昭和50年頃から生徒個人への対応だけでは問題が解決しない例が増えてきました。それで生徒の家庭にも眼をむけて相談を受けています。

対象は父親であったり、母親であったり、また父母同伴であったりしますので、私達はただいまチームを組んで、私は父母の方を担当し、養護の先生は子供を担当するというふうにしています。



飯田 澄美子 先生

登校拒否(不登校)の子どもの数
(文部省調べ) 毎日新聞より



りのウエイトがあるように思われます。文部省の平成2年の統計により

その上で必要な場合には、専門施設(大学病院の)心療内科クリニックなどをお願いする…そういった関係をつくり、システム化して対応しています。

草川 登校拒否には、いろいろなステージ、症状があり、種々のタイプに分かれています。それで(本来は一つのものなのですから)、家庭、本人、本人の身体状況、学校などについて、それぞれの対応が必要になってくると思われます。

また先刻もお話しがありましたように“ひとりでに治ったもの”もありますから、『私がこうして治した』と言い切れないものもあります。さらに“登校拒否”の継続から脱け出せずに、何時までも社会復帰が出来ずに、独り部屋に籠っているという不幸な例もありますね。この登校拒否を防ぐには、やはり子供が赤ん坊の頃から、家族ぐるみでいい環境を作って行かねばならないのだと思われます。

人間形成の原点は

司会 人間形成の原点に、幼児に母親から十分に愛されることと、さらに子供どうしの遊びなどが極めて大切だといわれますが？

杉浦 今ゼロ歳児の保育さえ“他人まかせ”になったりしています。これは大変不幸なことと感じますね。

それで子供の病気を保母さんに見つけてもらって、私達医師の所へ連れてこられる方もありましてねえ…。



杉浦 稔 委員長

学校保健も家庭と地域との連携してのライフスタイルを考えると、この就学前幼児の問題については、幼稚園は文部省、保育所は厚生省と管轄が異なっていて戸惑いを感じることもありますね。

飯田 ゼロ歳児からの保育は極めて大切ですが、お母さん自身が、育て方、子供との対応のしかたに迷ったり、悩んだりされている場合もありますね。やはりそのあたりからきちっと相談を受け、支えて行かなければならないと思われます。

子供は3歳までにそのパーソナリティの基本ができあがるといわれますから、その時期までに、本当

の愛情が与えられ、母親が支えてくれるという安心感を持つことができれば、たいへん良いですね。

そのような、基本的な信頼感が、母親と子供の間、よりよく成り立っていれば、その子が将来、何か大きな問題に遭遇したりして、不安になったり迷ったりした時にも、うまくそれを乗り越えることができるといわれています。

司会 いま、核家族の多い環境の中で、若い親ごさん方に“子育てへの迷い”があるのでしょうか？

草川 家族について申しますと“母親ばかりが2人、あるいは父親ばかりが2人”と言ってもいいような場合がありますね、すなわち両親ともに(昔の父親のように)子供の面倒をみない場合と、逆に父親までが子供べったりで両親ともに母性的である場合(父親が子供に背中をみせていない、すなわち父親不在の感がある)と、この両方の例がありますね。

こんな場合には両親ともそれぞれ、兄弟姉妹の少ない家庭に育っている例が多いが、結果的にこれでは困るのです。なぜなら子供の人格がうまく育ちませんから…。

まあそんな訳で私のような年寄りがしゃしゃり出て『自立体験への学習』など、いろいろと育児指導をしなければならなくなるのですよ。(同感の声)

福原 母親教室のようなもの、本当に大切ですね。赤ちゃんの沐浴などもさることながら、赤ちゃんとの心の交流といいますか、可愛がり方などを是非強調してほしいと思います。スキンシップなど、愛情の伝え方ということでしょうか。

日内リズムと環境

司会 登校拒否をふくむ、社会生活への適応がうまく行かない子供たちは、どちらかといえば『夜型』に近いタイプであるとか、あるいは『朝食を食べないタイプ』だとか言われていますが…？

福原 私が見ました例では、小学生と中学生とでは違いがありますね。まず小学校の低学年児童ですと、まだまだ“食べさせられてくる”ケースがあります。朝食を摂ってきたと言ってもパンを一口しか食べていなかったりする場合がありますから、実態をよく見きわめる必要があります。そうでないと統計のバランスはよくても“見落とし”の可能性が出て

きます。

データでは小学生の3~4%は、朝なにも食べてこない…となっています。理由は宵っぱりで起床が遅くて食慾がないことが多いようです。中には母親が準備してくれない、などもあります。

一方、中学生では10%くらいが朝食を食べて来ないというデータがあります。

草 川 私は以前、登校拒否児を入院させた上で、その日内リズムを調べたことがあります。たしかにホルモンの分泌、脈拍、脳波、睡眠のリズムなどに“ズレ”や乱れが認められました。すなわち、登校拒否児のうち80~90%にそれが認められました。夜型の生活は大人よりも子供に、より悪い影響があつて、ホルモンの分泌、胃の働き、

その他の臓器の働きのリズムが乱れ、自律神経のアンバランスをきたします。そして“うつ病”につながっていくと考えられ、出てくる症状も無気力、腹痛、頭痛、その他とまことに多彩です。

関連して“うつ病”の原因にふれてみますと、①遺伝子の(負の)特徴を持ったタイプ、これは育児の環境によって“うつ性格”が形成されます。次いで、②季節の影響もあり、春、秋に悪化しやすい③食事時間の乱れ…これが意外に大きい因子とえます。④睡眠、覚せいのリズムの乱れ、これは直接的に重要な影響を及ぼすと思われます。③④は家庭の生活リズムの問題です。

保健室登校の実態

司 会 このところ、登校拒否、保健室登校、さらにベッド・スクールなど、新しい事態を意味する言葉が現われて、私達関係者を悩ませるのですが…。

飯 田 保健室登校とは、常時保健室にいるか、特定の授業には出席できても、学校にいる間は主として保健室にいる状態を言っています。

文部省では平成2年度に養護教諭の相談活動の充実をはかるために(児童相談所長や精神科の医師、養護教諭、保健指導主事の方等から成る)15名の委

員会を編成して全国レベルでの第一次調査を致しました。調査は北海道から沖縄まで、全国にわたって行い、人口50万以上の市と、それ以下の市町村とを分けて調査いたしました。対象には小学校、中学校、高等学校をそれぞれ329校ずつ、合計987校を選び、11~12月中の1週間にわたって調査、回収率99.8%を得ました。

アンケートでは1校あたり1日平均の保健室来室生徒の人数を調べたのですが、結果は30.6名でした。その内訳を申しますと、小学生28.7名、中学生31.3名、高校生31.7名となっております。もちろん各学校によってバラツキがあり、多い学校では1日に50名位のところもございます。

不定愁訴はその子供たちのうち、3~5%にみとめられましたが、その背景に、友人関係、家庭関係、学習関係の問題を抱えている例もありました。

その内容に触れますと、小学生ではクラブ活動、友人関係、家庭関係のストレス等が多く、中学生では、学習、受験関係、家庭関係、友人関係等。高校生では、学習関係(進学、就職等)、次いで異性関係、友人関係、(いじめ、孤立)、家庭の問題関係・両親の不和、離婚、祖母と両親との不和等の他、親が自分の話を聞いてくれない、また躰が厳し過ぎる等々となっております。

また、『休養したい、薬が欲しい…』などと訴えて来室した児童・生徒の中にも相談が必要なものが少くないことがわかりました。

司 会 たとえば、どんな例がありますでしょうか？

飯 田 このような場合、つねに養護教諭は相談にのりますが、さらに担任と連携をとったり、保護者と相談したり、専門の先生に相談したりもします。

1例を申し上げますと、ある女生徒で、1日に何回も保健室を訪れ、養護教諭の顔を見て、おしゃべりをして行くのですね。そうすることによって心の安定が得られ、その後は落ち着いて学習ができています。すなわち、話しを聞いてほしいとか、悩みを解決してほしい等々、いろいろな訴えをもって来室しています。

その他、腹痛、ストレス性胃潰瘍、多食症、拒食



草川三治先生

症、自律神経失調症、強迫神経症といったタイプの生徒の訴えもごさいます。また、保健室登校の児童生徒は、小学校23校で平均7.1%、中学校の75校(23.2%)、高校26校(8.1%)で、中学校では1校あたり3名以上ある学校が全校数のうち11%もありました。

ともあれ、小・中学校全体をみますと、1校あたり1名程度は認められるようでした。

司会 そんな場合に、養護教諭の方の対応は？

飯田 たとえば、○保健室の仕事の手伝いをさせる。○保健室の中で学習をさせる。○じっと話を聞いて様子を見る等々です。このように対応するうちに養護教諭との“信頼関係”ができて、再び教室へ出るタイプと、効果が少く欠席が多くなって登校しなくなるタイプとがあり、対応はむずかしいです。

保健室外の条件としては、担任と子供の関係がうすい場合とか、あまり(保健室まで)訪ねてくれない場合もあります。これは友人の場合にも当てはまりますが…。

ともあれ養護教諭と担任、その他の人達の(連携しての)対応がうまく行きますと、子供は“自分でものを考えていく”ようになり成長します。(同感の声)

草川 これらの状態の因果関係ですけれども、よく言われている話として、『身体症状があって、さらによく聞いてみると、家庭の問題等が潜在した』という“学説”がありますが、私には必ずしもそうは思えません。むしろ最初に身体の方に原因があって、そこから問題が出てくるのであり、必ずしも心因性とばかり言えないのではないかと考えられるのです。たとえば保健室登校児(登校拒否も含む)の親の方にも体質的にも問題が存在するのではないかと思われる、そのような理解も必要だと思うのです。

こんな例もあります。最初は校長室に入り浸って次には保健室へ行くようになった生徒があり、その子に投薬を試してみたところ、まず好きな課目に出席し、その後次第に好転しました。

これは投薬が奏効した例ですが、後にその子の家庭を調べましたら、離婚家庭であったという例もありました。

杉浦 子供が幼い頃の、両親の“離婚劇”がその

子の心に、マイナスのインプリンティング(刷りこみ現象)として残ることがあったかもしれませんね。

福原 そうですね、子供が3歳になる頃まで、親子と一緒に生活することは本当に大切ですから。

私もかつて養護教諭であった時代に、保健室登校児に幾度か出合いました。その都度感じましたのは“母性が必要だ”ということでした。それで扉に『悩みがあったらいらっしやい。一諸に話しましょう』と貼り出して成果をあげたことがあります。



福原保子委員

“目と目の交信”が大切ですし、また『二人だけの秘密』として信頼関係を持ち合うのも大切です。

杉浦 保健室登校児でも回復して、(教室へ行けるようになって)保健室へこなくなる場合と、また逆の場合もあるのではないのでしょうか？

草川 いろいろありますね、ちょいちょい休むタイプ、朝起きられずに休むタイプ、これには抗うつ剤が奏効する場合があります、多彩ですねえ。

それから対応の方法ですけれども、登校拒否などの初期で“誰にも会いたがらない”のを無理に連れ出すのはよくありません。もう少し快くなって、時々、外に出るがまだ友人には会いたくない、という時に上手に誘い出して成功することもあります。要は子供の状態と対応のタイミングですね。また誰が(学校へ)連れ出すのが良いか、友人か、先生かということケース・バイ・ケースですね。

杉浦 同感です。タイミングが大切ですねえ。

よりよい対応は？

司会 先程から素晴らしいお話を沢山うかがいましたが、最後に登校拒否から保健室登校などへの解決策ないしは、その方向などをお話しいただきたいと思います。

草川 まず基本的には“育児”から考えなければならぬと思います。すなわち、核家族化した家庭のお母さん方にとっての『辛い育児』を上手に指導して『楽しい育児』にしなければなりません。たと

えば、摂取カロリーの問題、習慣のしつけ方、お風呂には何時頃に入れるかとか、細かいリードが必要になって来ます。その点、小児科医の責任は大きいですね。

福原 三つ児の魂、百まで…という通り、乳幼児期からの親子の“つながり”が大切だと思います。たとえば「お母さん…」と問いかけられたら、忙しいからといって「後でね…」と言うのはよくないと思います。その時は、仕事の手をとめて目を見ながら、子供の話しを真剣に聞くことが大切ですね。

お互いの“存在感”を感じ合うこと。そして、ストローク（抱きしめ）が大切だと思います。それによって母と子の情緒の安定が得られるのですから。

もう一つ、学校サイドに希望したいことは、子供の心の乱れを早く発見してほしい、子供からの“SOS”信号を早期に読みとってやってほしいということですね。

飯田 やはり“乳幼児期の対応”が非常に大切ですね、もう先年のことですが、私、乳幼児検診の時に“気にかかるお子さん”の32名について、その子が中学校を終えるまで継続的に縦断的に観察したことがございます。その中で印象的だったことは…母子家庭で母と子の関係があまりうまく行っていなかった（私達の指導も十分でなかった？）例が、中学校に入学してから登校拒否を起こしています。そのことを逆にふり返って見てみますと、やはり乳幼児期での母親との関係とか、その対応の仕方がどんなに大切かということがよくわかりました。

また学校に入学いたしましてからのことを考えま

すと、教師に子供を理解しようという姿勢がないとうまく行かない、学校の雰囲気自体に“子供を支えて行く”という姿勢がないといけないと思いますね。

それができていれば養護教諭と担任の先生との相互理解、協力関係も生まれてくるでしょうし、さらに専門機関との連携もうまく行くのだと思われます。

杉浦 登校拒否の子供さんの半数位は放っておいても良くなるといわれますが、中には医師を訪ねてこられる時に

は、かなり症状が悪化している例もあります。やはり早期発見、対応が大切ですね、そして私達も精神科医などを交じえてもう少し勉強しなければなりませんね。

司会 本日はいいお話しをいただき有難うございました。（文責 竹田編集委員）

注：インプリンティング……この概念は日本語に訳すると「刷り込み現象」とされ、ドイツ語では「プレーグング」といわれる。これは、現代比較行動学の父とも呼ばれ、ノーベル賞受賞者でもあるコンラート・Z・ローレンツによって開かれた学説である。

その内容は、たとえば生まれたばかりのアヒルの前で長靴を動かすと、雛は長靴を親だと思い、その後について歩く。そして、そこから種々の生きるための学習が始まるが、その最初の印象の記憶が「インプリンティング」なのである。



竹田 鐘 委員

虎の門(18)

運慶は、太い肩を一寸の高さで横に彫り、のみを豎に返すや否やは斜すに上から打ちおろした。厚い木屑が槌の声に応じて飛び散った。小鼻のおっぴらいた怒りの側面が忽ち浮きあがった。「よくもまあ無造作にのみを使って、肩や鼻ができるものだ」すると若い男が「な

に、あれは肩や鼻を彫っているのではない。あの通りの肩や鼻が木の中に埋っているのをのみと槌の力で掘りだしているまでだ。」漱石の夢十夜の一節である。

東大寺の南大門の金剛力士は、運慶、快慶ほか16名の仏師が僅か72日で完成したという。仏師たち

漱石の夢十夜

の阿吽の呼吸こそ、組織活動の真髄である。それにしても、極めたる人のもつ知識、技能のすばらしさ。学校保健の場にも仏師たちの阿吽の呼吸を活かしたいものである。

会報編集委員 石井宗一

平成4年度 叙勲された学校保健の功労者

《 春 》

《 秋 》

◎ 学 校 医

<旭 五>

梶本 美德(神奈川県)

<瑞 五>

石本 武(青森県) 平形 義人(群馬県)
渡邊 好雄(新潟県) 黒河内谷一(長野県)
西川 量夫(愛知県) 西岡 道弘(和歌山県)

◎ 学校歯科医

<旭 五>

山崎 安隆(富山県) 高見澤幸助(長野県)
湊 信一(兵庫県) 沖本 秀夫(広島県)
豊嶋 武夫(香川県) 佐藤 正弘(鹿児島県)

<瑞 五>

宇治川清三(群馬県) 丸山 達吉(埼玉県)
咲間 廣(東京都) 杉田 徳男(山梨県)
中原 政雄(静岡県) 大菊 義春(高知県)
長岡 守(高知県) 松田せよ此(茨城県)
長谷川民代(宮崎県)

◎ 学 校 医

<旭 五>

奥野 潔(埼玉県) 横山 文貞(奈良県)
池田 修(広島県) 諸熊 武康(長崎県)

<瑞 五>

南出 景造(北海道) 大原 甫(福島県)
寺田 進(茨城県) 沼賀 弘詮(群馬県)
中村 榮一(神奈川県) 齊木佐一郎(山梨県)
田村 善朗(長野県) 飯島 杏榮(長野県)
三田村 竦(静岡県) 古田快太郎(和歌山県)
黒田 清秀(鹿児島県) 相馬みせり(青森県)
田那村恵津子(千葉県)

◎ 学校歯科医

<旭 五>

塚越 三郎(岩手県)

<瑞 五>

金山 富光(岩手県) 北澤 利康(長野県)
尾之内 茂(愛知県) 大橋 紀男(和歌山県)
鐘築 好光(島根県) 勝島榮太郎(広島県)

第42回 全国学校保健研究大会

文部大臣表彰の個人・学校・団体

◇ 学校保健関係

◎ 学 校 医 (58名)

高下 泰三(北海道)	多米 豊(北海道)	中村 光男(青森県)	橋本 謙男(岩手県)
山家 禎一(宮城県)	岡村 敏弘(秋田県)	高橋 達弥(山形県)	二瓶 俊雄(福島県)
熊川 孝(福島県)	鈴木 章友(茨城県)	村上 三郎(群馬県)	中村 泰三(埼玉県)
藤平 健(千葉県)	鈴木 元一(千葉県)	山上健次郎(東京都)	吉野 茂(東京都)
道源 敏三(東京都)	中村 正衛(神奈川県)	相澤 克夫(神奈川県)	林 明德(神奈川県)
宮川 糧平(新潟県)	平野 秀一(富山県)	片口 保一(富山県)	清水 一也(石川県)
岡本 敬一(石川県)	小林 玄濟(山梨県)	佐々木芳岡(山梨県)	篠原 靖(山梨県)
城下 延夫(長野県)	加々美 孝(岐阜県)	松久 迪三(愛知県)	齋藤 定三(愛知県)
小堀 鉦一(三重県)	岡田 彰(滋賀県)	滝本 恒雄(京都府)	玉井 太郎(大阪府)
木下 秋水(大阪府)	山下喜代司(兵庫県)	中村 玄(兵庫県)	横山 文貞(奈良県)
山本安太郎(和歌山県)	入江 正昭(鳥取県)	森 正三(島根県)	永山 克巳(岡山県)
青柳秀一郎(広島県)	三好 正之(山口県)	霜田 慶秋(徳島県)	高橋 達志(香川県)
池 定好(高知県)	表 猛(福岡県)	平川 涉(佐賀県)	沖 賢治(長崎県)
友岡 力(大分県)	森崎 潤一(大分県)	高森 通夫(宮崎県)	日高 敏美(宮崎県)
岩城 直(鹿児島県)	新里 吉一(沖縄県)		

◎ 学校歯科医 (34名)

寺岡 四郎 (北海道)	奥寺 文彦 (青森県)	國香 和彦 (岩手県)	中島 早苗 (茨城県)
吉田 勇 (群馬県)	関 國恵 (埼玉県)	秋本 廣 (千葉県)	柳澤 一雄 (東京都)
梶取 卓治 (東京都)	関戸 利夫 (神奈川県)	山口 三郎 (神奈川県)	林 宏一 (神奈川県)
三塚 憲一 (山梨県)	古屋 富雄 (山梨県)	百瀬 清治 (長野県)	岩久 正次 (岐阜県)
伊藤 隆二 (愛知県)	山本 直哉 (滋賀県)	村上 勝 (京都府)	高寄 昭 (京都府)
大内 隆 (大阪府)	中村 要 (兵庫県)	稲垣 眞也 (兵庫県)	大川 淳一 (和歌山県)
山根スエ子 (島根県)	徳田 静二 (広島県)	武田 新吉 (徳島県)	塩田 忠一 (香川県)
山本 和男 (高知県)	上村 一雄 (福岡県)	田代 隆一 (佐賀県)	音山 正樹 (長崎県)
春下 克己 (宮崎県)	原田 橘造 (鹿児島県)		

◎ 学校薬剤師 (15名)

蔵田二三男 (北海道)	進藤みのる (青森県)	高宮 達治 (岩手県)	村越 篤 (山形県)
濱田 安雄 (栃木県)	吉田 信三 (東京都)	小池 達弥 (山梨県)	富田 昭久 (静岡県)
野口 浩 (滋賀県)	林 博三 (京都府)	保科 寛 (大阪府)	松浦 清 (和歌山県)
藤本 治平 (高知県)	舌間七之介 (福岡県)	田添仁兵衛 (熊本県)	

◎ 校 長 (5名)

堀井 清志 (秋田県)	池田 収 (栃木県)	跡部 義幸 (山梨県)	乾井 實 (奈良県)
田淵 孝夫 (岡山県)			

◎ 保健主事 (2名)

小河原 健 (群馬県)	壺井 忠雄 (埼玉県)
-------------	-------------

◎ 養護教諭 (9名)

坂巻 綾子 (栃木県)	山口 昭子 (東京都)	鈴木美智子 (東京都)	川村 ハツ (東京都)
小林 恭子 (山梨県)	小笠原鈴音 (山口県)	岩橋ノブエ (長崎県)	松尾 フキ (長崎県)
新垣 初子 (沖縄県)			

◎ その他 (2名)

鳴田 靖子 (京都府)	櫻井日出生 (福岡県)
-------------	-------------

◎ 学 校 (11名)

青森県木造町立越水小学校	新潟県柏崎市立新道小学校	福井県福井市神明小学校
静岡県浜松市立滝沢小学校	三重県飯高町立宮前小学校	鳥取県佐治村立佐治小学校
広島県音戸町立早瀬小学校	徳島県阿南市立椿小学校	愛媛県城川町立城川西中学校
愛媛県別子山村立別子小学校	鹿児島県隼人町立小野小学校	

◎ 団 体 (1団体)

熊本県高等学校保健会

◇ 学校安全関係

◎ 個 人 (2名)

田中 信治 (埼玉県)	小橋 容之 (高知県)
-------------	-------------

◎ 学 校 (20校)

山形県尾花沢市立福原中学校	福島県塙町立常豊小学校	栃木県馬頭町立健武小学校
千葉県岬町立古沢小学校	東京都武蔵村山市立第五中学校	富山県魚津市立大町小学校
福井県三方町第三小学校	長野県中野市立平岡小学校	静岡県相良町立菅小学校
愛知県豊明市立館小学校	京都府亀岡市立蔭田野小学校	奈良県橿原市立耳成幼稚園
島根県吉田市立田井小学校	岡山県立倉敷天城高等学校	山口県豊浦町立小串小学校
香川県土庄町立土庄中学校	愛媛県中山町立佐礼谷中学校	福岡県直方市立感田小学校
佐賀県呼子町立加部島小学校	熊本県立玉名工業高等学校	

*上記の叙勲・表彰された方々について、本会より例年どおり個人には銀盃、学校・団体には記念品代を贈呈しました。

第42回 全国学校保健研究大会 特別講演

ワイン文化を考える

山梨県果実酒酒造組合 会長 浅井 昭 吾

山梨とブドー

山梨県民は朝夕、富士山を眺めて生活している。イメージキャラクターとしてブドーがある。この富士とブドーは県民の心の中に広がる風景である。山梨は山村で、水田を拓くことは難事業であった。江戸時代は穀類以外の栽培は許されなかった。それが明治4年「水田、白田（畠のこと）の種芸、米麦にこだわらず」の「田畑勝手作り」の令がでて、それまで勝沼の一部しかなかったブドー栽培が広がった。

明治政府は国力の向上のため、西洋農法を導入し、「余業のすすめ」として果樹栽培、牧畜を奨励した。そのとき、ワインを作るためのブドーを輸入した。しかし成功しなかった。それはワインを飲む人がいなかったからである。だが、果物としては成功し、山梨県農業生産額の53%を占めている。勝沼一帯のブドー畠は世界に誇る景観とって過言でない。また、岡山、山形のブドーも明治の輸入が契機となっている。

ブドーと風土

ブドーは日本で果物、すなわち水菓子として見るが、欧米では飲み物としている。これは暮らし方、文化の違いである。地球規模で見るとブドーを飲み物と考える人の方が多い。なぜなら、動物は食性によって棲み分けをしている。コアラがユーカリ、パンダが笹のあるところに生息しているように。しかし、人間は雑食のため地球上に広く棲むことができた。その場所に適した暮らし方を工夫しているわけである。これを人間に即したいい方をすると文化といい、自然に即した表現の言葉が風土だと思う。

世界でも有名なボルドーやブルゴーニュのワイン屋さんは、自分たちの優れた技術のことには言及しない。「神から与えられた風土のお陰」という。宿命論的風土論という人がある。これは風土の理解不足だと思う。風土とは人間の作るものである。

風とは天候のこと。土とは大地のこと。イコール自然と理解してしまう。自然に人間が住んで風土となる、と私は考えている。

日本人は風土をどう考えていたか。9世紀の中頃の「令義解」という本に「その風土よろしきを異にし、種収等しからず」とあり、その註に、「物を養い耕するを風といい、居ながらにして万物生ずるを土という」とある。これが日本で最初の風土の概念規定と思う。人間の手によって作られていくプロセス、その中に風土が生れる。

ブドーとワインの歴史

ワインの歴史も、人間の歴史の中では最近のこと、やっと200年である。その前にはボルドーもブルゴーニュも森だった。その森の中に暮す人にワインを必要とする文化が育ったのである。ローマ人がフランスへ攻めこんでくる。キリスト教が広がっていった、という歴史の下にあった。神が与えた、というのがこれは人間の努力でできたものである。

ブドー文化の発祥はカッカス（コーカサス）といわれている。氷河期前の地層からもブドーの種が発見されている。生き残った種がカッカスと北米大陸と考えられている。日本の種無しブドーは北米大陸系のもの、西欧はカッカス系を起源としている。

カッカスから西の方へ行ったのがワイン文化で、東の方、シルクロードを通して千数百年前、日本へきた。山梨県にきちんとした資料として残っているのが1300年前からある甲州種というものである。

当時、行基菩薩が仏教を広めるための知識技能集団を率いてきた。大菩薩峠の下のお寺の薬種園にブドーがあった。ブドーは薬として使われていたようである。

西の方へ行ったブドーは、乾燥した風土の中で飲み物となり、日本へきたものは湿潤した風土の中で果物となったのである。日本では水が豊かであったので、果物を飲み物とする考え方は生れなかった。乾燥した地域の人びとは、果物を絞って飲んだわけである。絞って置いてあったものが発酵してワインになったので、ジュースとワインは同じ線の飲み物として、ワインを酒とは考えていないわけである。

良いワインを育てるために

私たちがジュースを飲むが、これはつい最近のことである。日本ではジュースもワインも異質の文化であった。そのためテーブルワインとしては育たなかった。しかし、甘味ブドー酒として技術は残っていた。それが今日の甲州ワインにつながっている。

今日、大衆化、国際化、情報化というキーワードで文化も成熟し、異文化意識も希薄され、ワインも親しまれてきた。ワインの作り手がいても、それを評価する飲み手がいないと、良いワインは生産されない。作り手を理解していただきたい。

(文責 杉浦編集委員長)

講師略歴：昭5年東京生、昭28年東工大卒、同年現メルシャン(株)入社、昭62年同社勝沼ワイナリー工場長、平元年同社理事、ワインについての著書多数。

北から南から

性教育の実践を通して

札幌市立上野幌小学校 教諭 三浦伸一

1. はじめに

性教育は、その必要性が叫ばれて久しいが、取り組みとなると消極的であったり、実際に系統的に進められるまでには至っていない。

しかし、当初の性教育の重要性を唱える人たちの実践から学校ぐるみの取り組みへと広がりが見られ、実践交流や研修を通して、より充実した指導のあり方を模索しつつある。

2. 札幌市の活動から

さて、札幌市の小・中学校の教職員で構成する札幌市教育研究協議会(札幌研と略す)、その中の小学校保健研究部でも「性に関する指導」の実践研究を継続して行っている。部員は養護教諭が多く、一般教諭が少ないので授業公開等を通して広く性に関する指導を知ってもらい、交流を図っている。昨年度10月の研究集会で、授業公開をする機会を得たので、そのことについて少し触れてみたいと思う。

3. 授業から

授業は一年生の「きれいなからだ」という単元で、からだを清潔にすることの大切さと性器の大切さを知り、清潔にする習慣を身につけさせるのを目標とした。今回は、性に関する指導は家庭との連携が大切とのことで、父母にも授業を参観してもらった。また、授業に先立って、家庭での様子を知る目的で「生活習慣のアンケート」に協力してもらい、家庭で

の入浴の様子や排尿・排便で気づいたことや心配なことをあげてもらった。このアンケートは、授業準備を進めていく上で大変役立った。参観後、父母から寄せられた感想の中には、「今後も良い生活習慣をつけていきたい」「男女の体の違いについて話題になり、良い機会となった」などの意見があった。

授業では、よごれには目に見えるものと見えづらいものがあること、からだのよごれは衣服にかくれているところにもあることを気付かせることを、人形を使ったり、実際にタオルを使って体をふいてみた。しかし、あまり汚れはつかず汚れに気付かせるのは難しかった。他によごれたままでは、なぜいけないのかとよごれをとるには、どうしたらよいかを考えさせた。

4. おわりに

私は、札幌研の他に、札幌市学校保健会の事務局の仕事もしている。主に研究大会の企画推進であるが、今年度8回目を迎えた独自の研究大会でも性の問題を取り上げ、産婦人科の先生の講演、小・中・高の実践発表をしてもらった。学校の先生の参加が一番多かったが、PTAの参加も次に多く、父母の関心の高さを実感できた。

これからも、子供たちとしっかりと向き合った貴重な実践の一つでも多く積み重ねていくように願ってやまない。

第31回全日本よい歯の学校表彰校

平成4年11月13日、徳島県にて行われた第56回全国学校歯科保健研究大会で、全国より81校の応募がありその内、最優秀6校に対し、文部大臣賞と副賞特別賞受賞8校には、日本歯科医師会より会長賞が授与された。

最優秀受賞校 青森県八戸市立三条小学校 山形県酒田市立浜田小学校 千葉県千葉市立横戸小学校

福井県福井市立東郷小学校 広島県広島市立吉島東小学校 佐賀県神埼郡神埼町立仁比山小学校
特別賞受賞校 群馬県高崎市立長野小学校 埼玉県秩父郡皆野町立国神小学校 埼玉県浦和市立高砂小学校 東京都立川市立第七小学校 東京都江戸川区立南小岩小学校 大阪府和泉市立南横山小学校 徳島県阿南市立椿小学校 鹿児島県鹿児島市立皆与志小学校

手を洗うと、殺菌・消毒も同時にできる!

シャボネット®石鹸液

多人数でお使いになるときは、連結式手洗い装置をご利用ください。

日本学校保健会 推せん品

サラヤ株式会社 ☎(06)797-2525

東京サラヤ株式会社 ☎(03)3472-1521

発行 財日本学校保健会 村瀬 敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13 第18森ビル 電話(3501)3785・0968 振替口座 東京4198761 頒価1部100円(送料共)



教育(呼吸・吸圧)シューズ

日本学校保健会推薦 No.817号

JESに学問を!
科学された教育(吸圧)シューズ!

日本教育シューズ協議会 TEL(0862)72-5463

目の健康と視力 その管理と指導

(財)日本学校保健会 編 ★A5・160頁・定価900円<千260>
 視力についての正しい知識と適切な指導・管理が行えるよう、目のしくみや働き、近視予防等について平易に解説した手引書。

(財)日本学校保健会 編 ★A5・86頁・定価820円<千210>
 日常生活の中で大切な役割を果たす平衡機能および関係の深い乗物酔いについて平易に解説。

姿勢・運動・乗物酔いと平衡機能 学校生活とからだのバランス

生き生きとした学校環境づくり 学校環境衛生活動事例集

(財)日本学校保健会 編 ★A5・128頁・定価1,080円<千210>
 学校現場での各種環境衛生活動について図・資料を豊富に用いて実践事例を紹介、環境改善を推進するためのわかり易い手引書。

第一法規 〒107 東京都港区南青山2-11-17 ☎(03)404-2251/FAX(03)479-1747

※定価は税込みです。



試験紙でできる、尿中白血球検査。

集団検診項目に、尿中白血球反応を加えませんか?
 尿路感染症スクリーニングも、その場で...

エームス尿検査試験紙(白血球(A)、ブドウ糖、蛋白質、白血球)
ライフスティックス
 エームス尿検査試験紙(ブドウ糖、比重、潜血(A)、pH、蛋白質、亜硝酸塩、白血球)
ネフロスティックス-L
体外診断用医薬品

マイルス・三共株式会社
 東京都中央区銀座1丁目9番7号
 販売元：
三共株式会社
 東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)3562-0411
JU0892-S

健康へのひと粒 歯・骨を丈夫に...

ビタミンADを含んだ... 服用しやすい
 ゼリー状ドロップ剤



カワイ肝油ドロップ

河合製薬株式会社

〒165 東京都中野区新井2丁目51番8号
 電話 03(3385)3111~7

プール用殺菌・消毒剤

ネオクロール

四国化成工業株式会社

東京本社 大阪支社 福岡営業所 名古屋営業所 徳島第2工場
 0472(96)8181 06(251)4111 092(431)4111 052(211)4111 0886(98)4111

